Volume 69– 2013 年 3 月

JRRN Newsletter

日本河川・流域再生ネットワーク http://www.a-rr.net/jp/

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に 2006 年 11 月に設立されました。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目 次 Pages

- JRRN 事務局からのお知らせ …… 1
- 会員寄稿記事 …… 7
- JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ …… 17
- 会議・イベント案内 …… 18
- 書籍等の紹介 …… 18
- 会員募集中 …… 19

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

講演会『市民による河川環境の見かた・調べかた - 英国 PRAGMO に学ぶ -』講演録発行のご案内

昨年 12 月 1 日（土）に開催致しました講演会「市民による河川環境の見かた・調べかた～英国 PRAGMO に学ぶ」の講演録が完成致しました。

地域に根差した河川・流域再生活動の更なる推進に向けて、本行事開催と合わせて昨年 11 月に出版しました「PRAGMO 日本語版　河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き」とともに、皆様にご活用頂ければ幸いです。（講演録は PDF 版のみの公開となります）

※講演録ダウンロードはこちら（PDF 3.3MB）
http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/67

※講演会開催報告はこちら
http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/164

※PRAGMO 日本語版ダウンロードはこちら
http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/60

※（財）河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けています。

JRRN 事務局からのお知らせ(2)

JRRN 会員連載寄稿記事の紹介ページ開設のご案内（JRRN ウェブサイト内）

本ニュースレターで毎月ご紹介しております二つの会員連載寄稿記事「水辺からのフォトメッセージ（2009 年 6 月～）」及び「川系男子の『川と人』めぐり（2012 年 5 月～）」のバックナンバーを紹介するページを JRRN ウェブサイト内に開設致しました。

これまで寄稿頂いた連載記事を通じ、水辺の癒し、川の再生に奮闘される方々の熱意や温もりなどを感じて頂ければ幸いです。また、JRRN 会員間の情報交換や交流の更なる活性化を願っております。

（JRRN 事務局・和田彰）

水辺からのフォトメッセージ

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube

川系男子の『川と人』めぐり

http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/kawahito

JRRN 事務局からのお知らせ(3)

市民等による河川再生活動の事例集「川を活かす・守る　～河川再生事例集～」発行のご案内

【発行のお知らせ（予告）】

2011 年 3 月に、国内外の河川再生に関する事例集「よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集～（URL：http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/25）」を発行しました。その事例集に関するアンケートを会員の皆様に実施したところ、「河川保全活動を行われている方の生の声を聞きたい」との要望が多く寄せられました。

今年度はそれらご意見を踏まえ、河川再生の取り組みをクローズアップした事例集作成を企画しました。

事例集は河川再生に関わる清掃活動、河川再生に関わる協議会への参加、外来種駆除、環境教育等多様な活動をされている方々より寄稿いただき、それらをとりまとめたものとなっております。

近日、市民等による河川再生活動の事例集「川を活かす・守る　～河川再生事例集～」が発行されます。

この事例集は、全国の図書館や学校に配布し、一人でも多くの方に手に取っていただき、個人や各種団体の取り組みの成果や悩みを共有し、皆様の河川再生・保全活動の取り組みのヒントを見出すものとして期待しています。

【構成】

事例集で取り上げる活動は以下のとおりです。

1. 荒川クリーンエイド　（荒川）
   NPO 法人あらかわ学会
2. 特定非営利活動法人 あらかわ学会　（荒川）
   特定非営利活動法人 あらかわ学会
3. NPO 法人エコロジー夢企画　（荒川水系 綾瀬川）
   NPO 法人エコロジー夢企画
4. 川と水辺を楽しむプロジェクト（荒川水系 石神井川）
5. “外来種の駆除”名古屋市山崎川の場合　（山崎川）
   山崎川グリーンマップ
6. よみがえれ諏訪湖 －住民の思いを力に変えて－
   （天竜川水系 諏訪湖）
   下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会
7. 芥川・ひとと魚にやさしい川づくり（淀川水系 芥川）
   芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク
   ～愛称：芥川倶楽部
8. 遠賀川式川づくり直方　（遠賀川）
   NPO 法人直方川づくりの会
9. 子ども達が描く夢の「宝川」目指して　（遠賀堀川）
   堀川再生の会・五平太
10. ふるさとの水文化を守り伝える川づくり
    （松浦川水系 厳木川）
    自然と暮らしを考える研究会
11. 五ヶ瀬川流域ネットワーク　（五ヶ瀬川）
    NPO 法人五ヶ瀬川流域ネットワーク
12. 埼玉県における「川の再生」の取組　（埼玉県の川）
    埼玉県 水辺再生課

【入手方法】

前述の通り、本事例集は全国の図書館に配布を予定しております。また、本事例集をご希望の方は、JRRN 事務局（公益財団法人リバーフロント研究所内 伊藤・後藤）までご連絡ください。

なお、JRRN 会員（個人・団体）限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致させていただく予定でおります。非会員の方は、JRRN 会員登録（無料）の上、お申込下さい。

■Email: info@a-rr.net
■電話：03-6228-3862　（担当：伊藤・後藤）
■Fax：03-3523-0640

※本冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成するものです。

（JRRN 事務局・伊藤将文）

JRRN 事務局からのお知らせ(4)

『桜のある水辺風景 2013』写真募集のお知らせ

2012 年は、「日米さくら交流 100 周年」の記念すべき年でした。明治 45（1912）年、東京を流れる荒川の五色桜（正確には、大阪・伊丹で育てられた台木に、荒川堤の五色桜を穂木として接ぎ木したもの）がアメリカに寄贈され、ワシントン DC のポトマック河畔などに植樹されました。ワシントン DC では、昭和 10（1935）年から桜祭りを開催するなど、いまでは世界的な桜の名所になっています。この寄贈の実現には、「すでに地球の美術工房となっている日本は、このスイス以上に世界融和の天職をもっているのではないでしょうか？」と自著『シドモア日本紀行』(1902 年)に記して日本を絶賛したアメリカ人女性、エリザ・シドモア(1856～1928)の働きかけなど、多くの関係者の努力があり、桜はまさに戦前における日米交流の象徴となったように思います。

その一方で、荒川五色桜は、明治後期からの工場の操業による公害の発生、明治 43 年の大水害後の河川改修などで衰退し、さらには第二次世界大戦による薪の供出などの受難が相次ぎ、とうとう消滅してしまいました。このため、戦後、五色桜の復活を目指して、桜の里帰りを求める声が高まり、昭和 27 年と昭和 56 年の 2 回、アメリカの桜がふたたび太平洋を渡って荒川流域にやって来ました。

このような交流が縁で、平成 8 年にはポトマック川と荒川が姉妹河川となりました。

春、全国各地に咲き乱れる桜には、多かれ少なかれ、このような物語があるのではないでしょうか。JRRN では、2010 年よりサクラの季節の水辺の風景をおさめた写真を、会員の皆さまから募集して、『桜のある水辺風景』として小冊子にまとめて来ました。今年も『桜のある水辺風景 2013』の写真を募集いたします。皆さまの身近にある水辺や旅行などで訪れた水辺の桜の写真を、その写真に寄せる皆さまの思いや桜の物語とともに、是非お送り下さい。

応募いただいた写真は JRRN の HP で公開いたしますが、この写真集を通じて、会員の皆さまが水辺の美しさを再発見するとともに、全国各地の水辺再生に向けた会員相互の交流の場がうまれるきっかけとなれば幸いです。

今年は海外からの応募も期待しています。

昨年の作品から

○テーマ：　「桜のある水辺風景 2013」　*※2013 年に撮影された写真に限定させて頂きます*
○応募資格：　JRRN 会員
○作品規定：
- 応募はお一人何点でも可能です。ただし応募作品は自ら撮影したものに限ります。
- 写真サイズはハガキサイズ程度の印刷でも鮮明なレベルとします。
- 個人が特定できる人物画像が含まれる場合は被写体の方の了承を得てください。

○応募方法：　別紙の「応募シート」に、題名、撮影場所、撮影年月、氏名、住所、電話、Email アドレス、写真利用時の個人情報開示条件、作品への思い等をご記入の上、写真と共に以下応募先へ送付下さい。(デジタル画像の場合は応募シートと共に電子メールにて、オリジナル写真の場合は応募シートを同封し郵送願います)
○応募期間：　平成 25 年 3 月 1 日（金）～平成 25 年 5 月 31 日（金）
○応募作品の取扱いについて：
- 応募期間終了後に、JRRN ニュースレターや「応募写真集」上にてご紹介させて頂きます。
- (撮影者に事前にご連絡の上で）JRRN 刊行物やウェブサイト等で無償で使用させて頂きます。
- 応募作品は返却致しませんのでご了承ください。

○応募先：
〒104-0033　東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号　新川中央ビル 7 階
公益財団法人リバーフロント研究所内　JRRN 事務局　（Email: info@a-rr.net ）
○問合せ：JRRN 事務局　担当：後藤・和田　（E-mail: info@a-rr.net　Tel: 03-6228-3862）

※「桜のある水辺風景 2013」応募要領はコチラ：　http://jp.a-rr.net/jp/news/info/264.html

※『桜のある水辺風景 2012』はコチラ（PDF 5.6MB）

http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/files/2012/06/JRRNsakura2012report.pdf

（JRRN 事務局・木村達司）

JRRN 事務局からのお知らせ(5)

『香港政府視察団と国内行政機関等の河川･水辺再生に関わる技術交流』支援報告（2/28-3/1）

2013 年 2 月 28 日（木）～3 月 1 日（金）の二日間、香港政府視察団が来日し、首都圏の河川・水辺再生事業を担う行政機関等との技術交流が行われました。本交流行事を JRRN が支援致しましたので、その概要をご報告させて頂きます。

【１】本視察団受入の経緯と視察行程

本視察団から JRRN に対する支援要請は 2010 年 9 月に遡ります。日本・韓国・中国の河川・流域再生に関わる現場視察及び事業実施機関との技術交流に関わる相談を受け、当時 JRRN が事務局を担う「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」として、河川再生分野の技術向上と関係機関の連携強化を目的にボランタリーで支援することとなりました。

その後、東日本大震災による延期や香港視察団側の事情などもあって日本及び韓国の二か国への訪問となり、日本国内は JRRN が、また韓国国内は韓国河川・流域再生ネットワーク(KRRN)が支援する形で、表－１の内容での各国公的機関との技術交流が行われました。

表－１　香港政府視察団の行程概要

月日	内容
2/24(日)	移動日（香港→ソウル）
2/25(月)	（韓国視察） 午前：良才川視察（ソウル市受入） 午後：Ara 放水路視察（K-Water 受入）
2/26(火)	（韓国視察） 午前：清渓川文化センター視察（ソウル市） 午後：清渓川視察（ソウル市受入）
2/27(水)	移動日（ソウル→東京）
2/28(木)	（日本視察） 午前：東京都建設局河川部技術交流 午後：旧中川・小名木川・隅田川・水門管理センター等視察（東京都受入）
3/1(金)	（日本視察） 午前：埼玉県総合治水事務所技術交流、及び大落古利根川視察（埼玉県受入） 午後：UR 都市機構埼玉東部開発事務所技術交流、及び越谷レイクタウン視察（UR 都市機構受入）
3/2(土)	移動日（東京→香港）

【２】視察団の構成及び視察目的

本視察団は、香港政府職員（香港特別行政区政府渠務署の技術者）3 名、及び民間コンサルタント 4 名で構成されています。この香港特別行政区政府渠務署は、都市排水路（河川含む）の洪水対策、水質改善、下水道等の業務を分掌する組織で､2009 年 2 月にも東京都建設局河川部との技術交流が行われております。

■香港特別行政区政府渠務署ホームページ：
http://www.dsd.gov.hk/EN/Home/index.html

■2009 年 9 月の東京都視察交流の様子：
http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/49

香港では、この渠務署が中心となり、旧・香港国際空港跡地における Kai Tak 川を軸とした水辺再開発事業をはじめ、香港市街地の都市排水路の水害軽減と環境再生に向けた事業が進められています。そこで、日本及び韓国の関連事業の視察を通じ、治水と両立した水辺の再生、水質改善、地域活性化等の具体技術や考え方等を広く学ぶことを目的に来日しました。

香港政府による視察目的として、主な関心テーマを以下に列挙します。

1. 水害軽減と両立した都市河川の再生
2. 再生による生態的価値・生物多様性の創造
3. 河川・水辺を軸とした都市・地域開発
4. 河川及び周辺地域の修景による観光振興
5. 再生後の維持管理や地域住民との連携

【３】日本における技術交流の概要

日本国内については､表－1 の通り､東京都建設局（河川部・江東治水事務所・第六建設事務所）、埼玉県総合治水事務所、及び（独）都市再生機構埼玉東部開発事務所のご協力を得て技術交流が実現しました。各交流の概要を以下にご報告します。

(1)東京都建設局との技術交流【2/28（木）全日】

2013 年 2 月 28 日（木）の午前に、東京都庁において東京都建設局河川部計画課と香港視察団との技術交流が行われました。

河川部計画課長からの開会挨拶の後、東京都が取り組む河川事業全般、また中小河川における河川事業、更に低地部河川における治水と環境改善に関わる事業概要についてご説明頂きました。

東京都建設局河川部計画課による開会挨拶

東京都が取り組む河川事業の概要説明

香港視察団からは、治水を目的とした事業実施に際しての緑（自然）の扱い方、スーパー堤防の用地の確保方法、地球温暖化における海面上昇等に対する備えなど、東京都が推進する河川事業全般に関わる様々な質疑応答がなされました。

小名木川での事業説明

続いて午後からは、視察団の要望を受け、旧中川や小名木川をはじめとする低地河川の河川管理、及び東京の母なる川・隅田川における治水と地域活性化の取組み、更には水門管理システムなどを学ぶことを目的に、船と陸の両方から東京都の方々に様々な取組みをご案内頂きました。

巡回船による水面からの河川事業案内

隅田川のスーパー堤防事業の説明

水門管理センターの概要紹介

現地視察終了後の記念撮影（清澄排水機場にて）

(2)埼玉県との技術交流【3/1（金）午前】

2013 年 3 月 1 日（金）の午前には、埼玉県が推進する水辺再生の取り組み、またその具体事例として大落古利根川再生事業について、埼玉県総合治水事務所と香港視察団との技術交流が行われました。

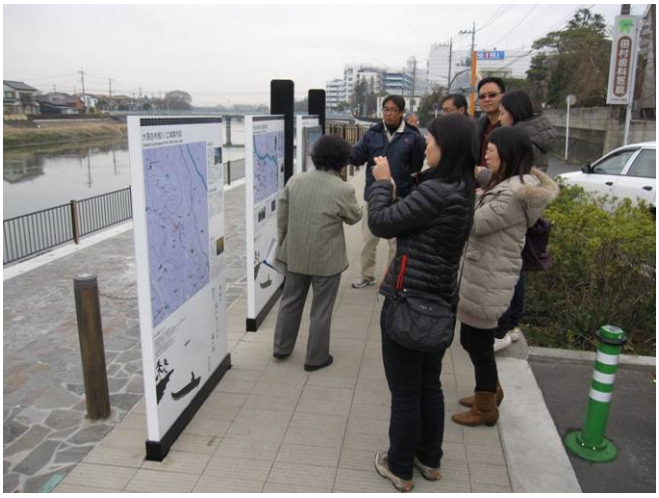
埼玉県総合治水事務所による開会挨拶

中川・綾瀬川における総合治水対策の説明

事務所内における事業紹介では、総合治水事務所長による挨拶及び埼玉県内の河川概要紹介に続いて、埼玉県による「水辺再生 100 プラン」の事業概要、また現在実施されている「川のまるごと再生プロジェクト」の紹介、更に本日の視察先である大落古利根川における河川再生の取組みなどをスライドやパネルを用いてご説明頂きました。

香港視察団からは、水辺再生 100 プランを始めたきっかけや、事業推進のため「川の再生」を目的とした「愛県債」を募集するなどの仕組み、市民との具体的な連携内容、また治水と河川環境改善の両立の工夫などについて、施策や技術に関わる様々な質問が出されました。

水辺再生 100 プランや大落古利根川の事業紹介



大落古利根川の現地視察

続いて、事務所傍を流れる大落古利根川を視察し、現在進められている「大落古利根川　川のまるごと再生プロジェクト」の事業成果、更に今後予定されている取組について、活発な質疑応答が行われました。

■「川のまるごと再生プロジェクト」が始動(埼玉県ＨＰへ)

http://www.pref.saitama.lg.jp/site/kawanosaisei/marugotoshidou.html

(3) UR 都市機構との技術交流【3/1（金）午後】

2013 年 3 月 1 日（金）の午後には、水辺を軸とした地域開発の事例として、越谷レイクタウンの開発を担う（独）都市再生機構首都圏ＮＴ本部埼玉東部開発事務所と香港視察団との技術交流が「水辺のまちづくり館」にて行われました。

UR 都市機構埼玉東部開発事務所による開会挨拶

越谷レイクタウン開発事業の概要説明

水辺のまちづくり館周辺を視察

埼玉東部開発事務所による越谷レイクタウンプロジェクトの事業説明に対し、香港視察団からは、人工調節池の機能や諸元、開発の資金調達方法、UR 都市機構と地元自治体との役割分担や事業推進の工夫などに関わる質疑応答がなされました。

また事業説明後の現地視察では、越谷レイクタウン事業実施エリア全体を詳しくご案内頂き、水辺環境と調和した街づくりについて、特にデザイン面での工夫や配慮事項についてご説明頂きました。

交流行事終了後の記念撮影（水辺のまちづくり館）

【４】おわりに

この度の技術交流を通じては、アジア共通の課題である「治水と環境の両立」というテーマに対し、相互の取組みや経験を共有する良い機会となり、また日本が培った河川・流域・水辺再生に関わる技術・制度・施策等に対する海外の期待の高さを再確認することもできました。

合わせて、香港政府視察団からの様々な質問に対して、日々の仕事に誇りを持ちながら、丁寧かつ真摯に対応する日本の関係者各位の姿勢にも強く感銘を受けました。

JRRN では、国内及びアジアの河川再生に関わる技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に、今後もこうした海外と国内関係機関との技術交流を支援し、その成果を皆様に紹介できるよう努めて参ります。

最後に、年度末の多忙な時期にも関わらず、本視察受入に対し、準備段階から当日まで全面的にご協力頂きました、東京都建設局河川部計画課、東京都江東治水事務所、東京都第六建設事務所、埼玉県総合治水事務所及び（独）都市再生機構埼玉東部開発事務所の関係者各位に厚く御礼申し上げます。

（JRRN 事務局・和田彰）

川系男子の『川と人』めぐり No. 11～西九州の川～

坂本貴啓（筑波大学大学院 生命環境科学研究科 博士前期課程　白川直樹研究室『川と人』ゼミ）

『川と人』めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きでしょうがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

1.　九州川めぐりの続き

2013 年 2 月 11 日～13 日の 2 泊 3 日で西九州の川(嘉瀬川，松浦川，六角川，本明川）を周った．8 日～10 日の福岡での第 2 回目の遠賀堀川調査を終えて（この報告は別途）の一人旅．10 月に周った時は福岡，熊本，鹿児島，宮崎，大分の 1 級水系を周り，20 水系中 16 水系を周っていたので，今回で残りの佐賀・長崎の 4 水系を周り九州全ての水系を周ったことになる．これにより中国地方の 1 級水系 13 水系を合わせると 109 水系中 33 水系を制覇したことになる．

学部時代，Joint of College（九州の大学生を中心とした災害復旧ボランティア）の活動などをしていた頃，大学生等活動交流会や九州「川」のワークショップ，九州「川」のオープンカレッジなどの運営に携わっており，開催地が佐賀，長崎の時に地域の人と度々交流していたので，研究では初訪問だが，自身としては再訪問だ．アポイントを取る際も「いいよ！」の二つ返事で OK!それどころか「○○川は私が案内して，その先の△△川は××さんに話を通しといたけん！」とか「宿はうちに泊まってよかよ.」と温かいご厚意の数々．川仲間冥利に尽きる．2 級河川も含め以下のような行程で今回の西九州『川と人』めぐりは行われた（表 1）．

表 1　西九州『川と人』めぐりの行程

日にち	午前	午後	訪問先
2月10日（月・祝）	嘉瀬川	松浦川	さが水ものがたり館 NPO法人嘉瀬川交流軸 厳木ダム 河童笑和国 虹の松原
2月12日（火）	松浦川	六角川 波佐見川 彼杵川	町切水車 アザメの瀬 武雄河川事務所 佐賀水ネット 波佐見緑と水を考える会 東彼杵清流会
2月13日（水）	彼杵川 中島川 銅座川	本明川	彼杵川魚道 長崎よか川交流会 本明川オピニオン懇談会 長崎河川国道事務所諫早出張所

2.　成富兵庫の治水の統べが残る嘉瀬川

NPO 法人嘉瀬川交流軸

高速バスは佐賀大和 IC を降り，周辺で下車し，『さが水ものがたり館』に到着．この建物は建設途中の僕が高校生の頃から知っていて大変愛着のある場所だ．

この建物は嘉瀬川の水利史跡『石井樋』の復元とともにつくられた施設であり，鍋島藩（佐賀藩）の家老の成富兵庫茂安の数々の治水・利水工事を学ぶことができる．館内に入ると「NPO 法人嘉瀬川交流軸」の事務局の宮崎さんと理事長兼佐賀大学名誉教授の荒牧軍治先生が迎えて下さった．（宮崎さんも荒牧先生も 10 月に九州川めぐりをした際に筑後川フェスティバルでお会いしていた.）

嘉瀬川交流軸についてお話しを伺うと，本団体は 2010 年に設立され，2011 年 8 月に NPO 認証設立されたばかりのまだ新しい団体である．脊振山系から流れ，有明海に注ぐ嘉瀬川の上下流交流の軸になることを目的に新設された．2012 年度からはさが水ものがたり館の管理運営も行っている．2010 年には，佐賀導水の完成により，河川管理の管轄が武雄河川事務所から筑後川河川事務所に移管されたことをはじめ，嘉瀬川ダム完成（2012 年）など新たな嘉瀬川の歴史が始まろうとしている．

また，水ものがたり館の事務局をされている宮崎さんは数々の生涯学習施設で勤務された経験のある方で，お話を伺うと「佐賀県は生涯学習施設が多い．普通の生涯学習施設なら佐賀市中心部にあった方が便利だろうけど，ここに学習館が存在する価値はなんなのかしっかり考えて伝えるものを差別化していかなくちゃいけない.」とおっしゃっていた．いつの時代もそこに変わらずに流れる川はまさに生涯学習の題材として価値のある教材であると私は思う．この日も午後から長崎方面からやってきた中高年の団体の方々が嘉瀬川の歴史に関して荒牧先生から説明を受け，施設見学をされていた（図 1）．

1 時間程度お話しした後，外の史跡も見学．石井樋公園の番屋付近からは嘉瀬川の水利史跡が見学できる（図 2）．この風景は何度みた風景か．最初は高校生の頃，遠賀川水辺館のリバーツーリズムの補佐員として，ドイツの河川技術者の案内で，九州川のオープンカレッジで E ボート体験の場としてなどなど四季折々に思い出がある．思い返せば最初に来た時から 8 年近くが

経っている．僕は歳をとったが，嘉瀬川の流れは変わらずにそこにあった．

何度見ても当時の水利技術の高さに驚かされる．仕組みとしてはこうだ（図 3）．まず，象の鼻と呼ばれる水制にぶつかった水が川の中央部で大井手堰に当たり，そこで逆流して緩やかになった水が象の鼻と天狗の鼻と呼ばれる構造物の間をゆっくりと流れ，砂を取り除いた利水用の水が石井樋から多布施川に流れ，佐賀城下を潤している．洪水時には石井樋を閉じ，利水と洪水を分離する優れた機能であったと推測されている．治水家として野中兼山や加藤清正，武田信玄などが全国的に有名ではあるが，佐賀平野を洪水から守り，土地を潤した成富兵庫の治水の統べは未だにここに息づいている．成富兵庫の碑に手を合わせ，後にした．

図 1　嘉瀬川について説明を受ける来館者

図 2　脊振山地と嘉瀬川と象の鼻

図 3　成富兵庫が築いた石井樋の水利システム
（佐賀水ものがたり館の展示模型より）

3.　松浦川

3.1 佐賀県一の厳木ダム

さが水ものがたり館を見学した後，自然と暮らしを考える研究会代表の石盛信行さんに案内していただいた．石盛さんは松浦川水系の厳木川（きゅうらぎかわ）を中心に活動しており，町切水車に復元に取り組んでいる方だ．川のワークショップで発表を聴いて以来，ぜひ一度伺ってみたいと思っていた場所である．

まずは厳木ダムに向かう．その途中，唐津市役所厳木支所に立ち寄る．あれ？今日休日なのにどうして？と思っていたら，休日の薄暗い役所内で職員さんが待っていて下さった．石盛さんが「筑波大の学生が来るからちょっと説明してあげて．」と事前にお願いをしてくださったらしい．休日にボランティア出勤をしてくださっていて大変恐縮だった．職員の K さんに同行していただき，ダムサイトへ．厳木ダムは松浦川水系の厳木川に建設された多目的ダム（F:洪水調整，N：不特定用水，W：上水道用水，I：工業用水，P：発電用水）で，堤高 117m，有効貯水量 11,800,000m^3 の佐賀県で最も高いダムである．しかしながら，嘉瀬川ダムと比較すると堤高は 97m であるものの，有効貯水量は 68,000,000m^3 と明らかに嘉瀬川ダムの方が大きい．たしかに厳木ダムのダム湖（佐用の湖（さよのうみ））はそんなに奥行がないのがそんなにないので，見た目でもそんなに貯水量は大きくないことがうかがえる(図 4)．（最近ダムをよく見るからかなんとなく，ダムの有効貯水量がどの程度か分かるようになってきた．これは川系男子としては大きな成果かもしれない．）ダムサイトの端にあるダム管理所でダムカードをもれなく獲得．ダム湖周辺を周ると，佐用の湧水という名水百選もあった．美味しい水と評判で，遠くから汲みに来られる方も多いらしい．山の各所から湧き出る水がやがて厳木ダムに貯まっているのかと思うと厳木ダムの水道水がなんだか美味しそうに感じられてきた．

このダム湖の上流周辺は公園や河川プールが整備されていて，レクリエーション機能が充実している．これは周辺地区の人と水源地ビジョンを考えて地域振興にも力を入れているためである．この地区の人達が中心となって周辺の散策路の草刈りや並木の手入れなどを行っている．5 月には川の上を泳ぐこいのぼりや 6 月にはダム湖周辺の梅ちぎりなどで賑わうという．佐用の湧水のあずま屋も自身らで建てたという．ちなみにこの厳木ダムが竣工したのは昭和 62 年．僕と同い年．僕の寿命が先かダムの寿命が先かは定かではないが，これから共に同じ年を重ねていき，どこまで同い年でいられるかを考えると大きなロマンにも思えた．休日にも関わらずわざわざご説明に来て下さった K さんありがとうございました．

図 4　厳木ダム湖（佐用の湖）

3.2 得須恵川で総理大臣と対談！？-河童連邦笑和国-

厳木ダムをあとにし，厳木川を下り，厳木川と松浦川が合流．その後も松浦川を下る．「次の場所についたよ．」石盛さんに連れてきていただいたのは物産館．「総理大臣がここにいるから，色々と聞きたいことを聞けばいいよ．」（ん？石盛さん今なんていった？物産館に総理大臣？）よく分からないまま奥に通され，謁見したのは富永祐司総理大臣．日本国の内閣総理大臣にはそういう名前の方は歴史年表を見ても載っていない．総理は総理でも河童連邦笑和国の総理大臣である．松浦川水系の特須恵川で 1988 年から活動されている．この河童の国，ただ得須恵川だけで活動しているわけではなく，ちゃんと外交もしている．毎年，全国の河童各国が顔を合わせる『河童サミット』なるものも開催されていて，2013 年で 26 回を数えるそうだ．各国の総理大臣や大統領，総裁はじめ河童の国の人達が参加し，親睦を深め，全国に友好な河童の和が広がっているそうだ．ちなみに全国組織は『河童連邦共和国』があるらしく，東京に大統領府があるようだ．恐れいった河童ワールド・・・．

この富永さん達の活動は大変古くもう 20 年目を越え，2008 年に成人式をされたそうだ．富永さん達が子どもの頃，徳須恵川周辺で河童のごとく遊んでいたように，子どもを川に呼び戻したいという想いが 20 年の活動を支えた．そして河童の国というユニークさこそが，楽しく続いている秘訣かもしれない．河童連邦笑和国バンザーイ！写真は徳須恵川の橋にいた河童の徳平（図 5）と波多吉（図 6）．

図 5　得平

図 6　波多吉

3.3 松浦川の河口へ

河童連邦笑和国をあとにし，どんどん松浦川を下る．川を下ると河口が近づき，松浦大堰や唐津城，虹の松原が見えてきた．松浦大堰（図 7）の上流は湛水区間になっており，漕艇練習場となっており，練習を終えた中学生が夕暮れの川沿いを帰宅していた．一人転んで血が出てしまったようで，「大丈夫？」と友達に寄り添われながら帰っているのをみるとなんだか微笑ましい．松浦大堰をさらに下流へ下るといよいよ松浦川のフィナーレへ．河口左岸側の崖の上には唐津城が高くそびえたっていた（図 8）．松浦川の右岸側以降の海岸線沿いには長さ 4 ㎞にもわたる日本三大松原の『虹の松原』が広がっていた（図 9）．河口付近の城下と松原と川．夕焼け色も加わり，黄昏には申し分ない風景．

図 7　松浦大堰

図 8　唐津城と松浦川河口

図 9　虹の松原に差し込む夕日

3.4　古文書から復活した 400 年前の町切水車（自然と暮らしを考える研究会）

河口まで一通り松浦川を案内していただいたところで日が暮れた．この日は石盛さん宅にお世話になった．石盛さんと話し始めたらお互いトークは止まらず，気が付いたら時計は午前 2 時を回っていた．

子曰く、学びて時に之を習う、亦た説ばしからず乎 朋有り、遠方より来る、亦た楽しからず乎（論語）

川を共通の対象として，熱く語れることこそ，川を学に志す者としての最高の幸せである．

夜が明け，支度をして早々に出発．最初の目的地は石盛さん宅からすぐの厳木川の町切用水．厳木川の町切堰から取水し，水を広く田畑に引き入れられる動脈になっている．しかしながら起伏のある田畑に広く水を行きわたらせるためにはこの水路一本ではなかなか難しく，そこで用いられていたのが水車である．古文書によると江戸時代この町切用水には 8 機の水車が設置されていたという．古文書の事実を知った石盛さん達は当時の水車を復元し，後世に残していくため，水車づくりに取り掛かる．もちろん誰も水車の設計などしたことがないので，試行錯誤しながら図面を書き，復元した．現在 6 機復元している．「朝倉の三連水車ほど見事なものじゃないけど，こんな小さな用水路でもその地域の歴史がある．だからこの水車の復元も意味があると私は思っているんだよね．」と石盛さん．おそらく日本全国多くの水路で水車を用いて田畑を潤していただろう．しかし，古文書をみて，実際に水車を復元した事例は稀なのではないかと思う．僕の実家の近くにも岡森用水があるが，もしかしたら水車があったかもしれない．用水路のそばには地主さんに厳木川そばの田んぼを提供してもらいつくった『相知水辺の楽校』がつくられていて，あずま屋やトイレなどがあり，地域の子供達の川基地になっている．厳木川の川遊びから上がればあずま屋でちょっと休憩し，すぐそばの町切水車を眺めて歴史も学べる場所だ（図 10）．

図 10　相知水辺の楽校と町切用水（冬季は水車なし）

3.5　自然再生事業でつくりだしたアザメの瀬

町切水車を後にし，向かったのはアザメの瀬と呼ばれる氾濫原（図 11）．ここは国土交通省の自然再生事業で，創出された全国 17 か所（九州 2 か所）のうちの一つである．松浦川流域の場合，中上流域は平地や盆地が重なる地形により大きく蛇行しているため，洪水軽減に堤防をつくる方法や遊水地をつくる方法などさまざまな治水対策が検討されていた．しかし，自然再生事業では敢えて氾濫を許容し，下流の洪水の低減を図るという方策になったため，松浦川の洪水時には氾濫原に一時的に水が入り，魚の避難場所にもなる．もともと，昔川が氾濫すると，田んぼに水が入り，そこにドジョウやナマズ，コイなどが逃げ込むという当時の状況に近いものがある．大事なのは『場』の再生ではなく『機能』の復元再生と当時の武雄河川事務所がコンセプトを掲げている．高台からこの場所をみると，たしかにアザメの瀬付近の右岸側の堤防は無堤になっており，水が入ってきやすそうだ．

氾濫を許容することで生き物が逃げ込み，土地も肥え，さらにはそこが環境教育に優れた場として使われている．

この仕組みをつくったのが当時，武雄河川事務所長だった，現九州大学の島谷先生．石盛さんが，自然再生事業が開始される時の当時の話をしてくださった．「当時島谷さんが赴任してこられた時，この事業に関する説明会を開いたんだよ．みんな関心は高くてね，会場はいつもいっぱい．みんな国交省が自然再生なんて名ばかりじゃないかと半信半疑ながらね．でも島谷さんや国交省は本気だったよ．『これは国家的威信をかけて成功させる必要があるんだ』と熱く語ってね．最初から私達も一緒にこのプロジェクトの計画に携われたし，色んな人が意見を言い合えた．だからここは成功したんだと思う．今は『NPO 法人アザメの会』ってのができて，ここを環境学習の活動の拠点にして活動しているよ．」最初の計画時からの住民参加を呼び掛けた合意形成が，この自然再生事業を一過性のものでなく，広がりをもたせたようだ．

（※自然再生事業に関する説明の引用は武雄河川事務所 HP より http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/torikumi/azame/gaiyo.html）

図 11　自然再生事業で創出したアザメの瀬

4.　武雄河川事務所と佐賀水ネット

松浦川流域をみて周り，次に向かったのは，武雄河川事務所（図 12）．現在は松浦川流域と六角川流域を管理している．ここで調査に関するヒアリングのため，事務所の方と佐賀水ネット代表の井上一夫さんが待っていて下さった．井上さんとは久々の再会だ．以前，九州川のオープンカレッジ in 佐賀の事務局を僕たちが務めた時，現地実行委員として，色々と調整をしてくださった．また，武雄河川事務所を訪問するのは高校生の頃以来で懐かしい．高校生３年生の頃，当時の所長さんとワークショップで知り合い，事務所でアザメの瀬や石井樋，六角川の説明を聞いたあと，現地の武雄高校の科学部の高校生達と交流する機会があり，とても懐かしい．まさかその当時，調査でここを再訪するとは思いもしなかった．

この佐賀水ネットという組織は約 100 団体の行政，企業，市民団体が参加する組織．大抵の場合，流域単位でネットワーク活動型の団体を形成することが多いのだが，この団体は佐賀平野をキーワードで団体を組織しているため，六角川，松浦川，嘉瀬川と流域を越えて一緒に活動している．もちろん石盛さんも参加団体の一つ．

佐賀水ネットは 2003 年に開催された佐賀水会議「低平地の水環境に関するフォーラム in 佐賀」において 69 団体の取り組みが発表され，交流が生まれたことをきっかけにこの集まりをなんらかのかたちで存続させていこうということでできたのが佐賀水ネットだ．発足当初は 16 団体からのスタートがいつの間にか 100 団体を越えたそうだ．流域のつながりを越えて，佐賀平野という共同体をつくり，連携をするのは面白い事例だと思う．河川事務所の１階にも地域連携窓口が設置されていて，地域の人が訪問しやすいような工夫がなされていた．ちなみにここの所長をされた 0 さんは転勤で部署が変わっても必ず毎年全国の川のワークショップに来られて水ネットの方と再会を喜んでいる．こういうつながりも水ネットの魅力の一つだろう．

図 12　武雄河川事務所を訪問

5.　波佐見川，彼杵川（２級水系）

5.1　シーボルトの川づくり（波佐見川）

武雄河川事務所で色々と教えていただいた後，石盛さんとはお別れし，次の目的地の長崎県波佐見町へ．「田崎のところまで僕が連れて行ってあげるよ．」と井上代表．本当に皆さんのご厚意が染み入る旅だ．

長崎県波佐見町を流れる川棚川は通称『波佐見川』と呼ばれている．ここで活動する『波佐見緑と水を考える会』の田崎武詞さんにお話しを伺った．この会は 1981 年に発足した会で，もう 20 年以上経っている．この会は『シーボルトの川づくり』というキャッチコピーで活動している．180 年前，長崎に滞在していたオランダ人のシーボルトは長崎周辺の魚種を持ち帰り，タイプ標本をつくっている．現在魚のタイプ標本となっている魚種はシーボルトが長崎で採集したものが多い．シーボルトが長崎から持ち帰った魚種は 20 種類と言われている．そのうちの 9 種類（カワムツ，オイカワ，カマツカ，アブラボテ，ドンコ，ナマズ，ヨシノボリ，イトモロコ，メダカ）が波佐見川に生息．もしかすると，シーボルトのタイプ標本はこの川の魚かもしれないと思うとロマンがある．シーボルトが 180 年後の現在の川に来たら「おいおい，俺はここで 20 種類捕まえたのに，今は 9 種類しかいないのかい？」と言うかもしれない．180 年前に住んでいた魚が変わらず棲める環境を残していかなければと活動している．大きな目標だけど，極めて明確な理念だ．シーボルトをキーワードにした活動はユニークで，地元特産の波佐見焼を使ったタイルの看板（図 13）を波佐見川に設置している．その他にも川づくりを考える『シーボルトの川づくり塾』や小中学生を対象とした年間活動の『シーボルト隊』など．最近では水辺の楽校も整備されて夏場は子ども達の遊び場になっている．シーボルトによって名づけられた（学名）の魚種が今後も棲み続けることを願う．

図 13　水辺の楽校に設置されている波佐見焼の看板

5.2　『日本一美しい村』を目指して（彼杵川）

波佐見川を案内していただいた後は東彼杵町の彼杵川へ.「池田さんのところは隣の川だから送って行くよ.」と連れて行っていただいた.

東彼杵清流会の池田健一さんのところへ到着. 2008年依頼の再訪. 池田さんはキャンピングカーをつくる職人さん. アユの遡上できない川の状況に心を痛め, 自身の大学時代の恩師の坂本栄治先生（元近畿大学教授/遠賀川水辺館）に川を見に来て, 助言してほしいと2008年にアクションを起こしたことがきっかけで『東彼杵清流会』を立ち上げた.（その時僕も彼杵川を見学させてもらった.）池田さん達は子ども達に彼杵川に関心を持ってもらおうと小学校で出前講座をはじめた. 池田さんの発信力あってか, 校長先生, 婦人会, 町役場, 県とどんどん応援団が増えていった. その甲斐あって, 魚道の改築も決まった. 彼杵川は2級河川で県管理の川であるが, 池田さんの熱意に心を打たれた国交省の諫早出張所長さんらも応援団に. 2012年には彼杵川のアユの産卵床づくりを小学生と一緒に行ってよりアユの棲みやすい環境を整えている. こんな短期間で問題がどんどん解決していくのは, 一重に熱意が彼杵川を動かしたに違いない.

この日は池田さん宅に泊めていただいた. 夜も池田さんと彼杵川の話が絶えない.「坂本君, 今度はね, 彼杵川だけじゃなく, 山, 川, 海（大村湾）をテーマにした紙芝居をつくることを考えとるとよ.」せっかくだからそれ, 全国の川のワークショップで発表しましょうよと提案したら,「よし, 今年それいくばい！あ, 坂本君は今日から東彼杵清流会の顧問で広報担当がよか.」ということに. 一夜のうちに顧問に就任. というわけで, これから広報担当としての職責を少しでも果たしたいと思う. 池田さんが最終的に目指しているのは『日本一美しい村東彼杵』. 全長7kmの小さな彼杵川は山, 川, 海が一体となって楽しめる. 東彼杵ICからも近いので, 土日にちょっと出かけてくつろぐのにおすすめ. ぜひ皆さんも一度彼杵川（図14）へ.

図14　東彼杵清流会が守る彼杵川

６．長崎県の河川

長崎よか川交流会

翌日, 池田さんに駅まで送っていただき, 一気に長崎市内まで下る. 線路は大村湾沿いに弓なりに続いている. 内湾である大村湾は波が穏やかなため琴の海とも呼ばれている. 福山雅治さんの『道標』(NEWS　ZEROのED曲）の曲の歌詞に『私はこの海が好きです. この弓なりに続く線路の. あなたが生まれ育った海に来ると後悔が軽くなる気がして』とあるがこれは福山さんが生まれ育った長崎の大村湾や祖母のことを詠んだ曲らしい. そんな大村湾の美しさに心を惹かれながら長崎駅まで到着.

長崎市内で長崎よか川交流会会長の兵働馨さんにお会いするため, バスに乗り換える. しかし長崎市内でバスに乗ったことがなく, どの乗り場にいけばいいか突っ立っていると,「どうかされましたか？」とおじいさん. 行きたい場所を告げると「それなら道路渡ってあっちの乗り場ですよ.」と教えて下さった. 長崎の人の温かさを感じた.

兵働さんの勤務先にお邪魔させてもらった. 兵働さんと現地でお会いするのは長崎県内で大学生等活動交流会をやって以来だ. 長崎県内の川は, 1級河川は本明川のみで, あとは全て小さな2級河川. あまり流域連携という文化が馴染まなかったようで, 他の流域に比べて連携して何かをするという活動は少なかったようだが, 2009年の長崎県波佐見町で行われたワークショップをきっかけに長崎県内の川で情報を共有していこうという機運が高まり,『長崎よか川交流会』が発足した. 現在21団体が参加している. 佐賀水ネットと同じように河川横断的にネットワークを組んでいる事例は九州内でもこの２つくらいだろう. 長崎県内の川の共同意識を高めるため, 波佐見川で行っていたシーボルトがみた魚種が転写された波佐見焼タイルの看板を県内の各地の川の魚種に合わせて建てているようだ.

兵働さんにお話しを伺ったあとは長崎河川国道事務所のY課長と合流. Yさんは遠賀川の出張所長時代からお世話になっていて, 転勤されてから久々の再会. 長崎市内の銅座川（図15), 中島川（図16）を歩き, 概要を案内していただいた. ちょうどこの時, 長崎ランタンフェスティバルのまっさかりで川にちょうちんがぶら下がっていて, 人で川沿いが賑わっていた.
Yさんに説明を受けながら諫早市の本明川へ向かった.

図15 銅座川

図16　中島川

７．本明川

本明川めぐりと本明川オピニオン懇談会

流域地図を見ながら移動すると，道路のわずかな起伏部分が流域界になっている箇所があった．流域界と言ったら峠道を抜けたトンネルなんかで確認することは多かったが，街中で確認できたのは初めてだった．

本明川流域に入り，最初に向かったのは本明川オピニオン懇談会代表の中原貴行さんのご自宅．約束の時間まで少し時間があるので自宅の目の前を流れる本明川を少し見学．本明川にはところどころ，『陸閘（りくこう）』（図 17）と呼ばれるスライド式の堤防があり，普段はここから川に降りていけて，出水時には素早くここを閉めて堤内地に水が入ってこないようにする仕組みだ．陸閘から河川敷の中へ入ると，川の中に飛び石が並べてあった．昔はここで洗濯や洗い物をしながら日常のコミュニケーションの場になっていたようだ．

川を見た後，中原代表にお会いした．（ヒアリング調査には諫早出張所長の N さんも同行して下さった．）1995 年から本明川に関心がある住民ではじめたのがきっかけ．ビン漬けと呼ばれる漁法を子供達に教えたり，本明川の夢プランを考えたりと様々な活動を行ってきている．ちなみにこの夢プランという名称は遠賀川の直方川づくり交流会の発案した夢プランから輸入した言葉だそうだ．「いつも近くで本明川を見ているからこそ洪水の驚異や川の魅力，色んなものが見える」と中原さん．中原さんも言われていたように本明川は度々洪水に悩まされてきた．本明川の河床個賠は急なため，上流で降った雨は市街地まで一気に流れ込む．また，同じ理由で平常時は流量が少なく，水資源確保が昔から課題になっていた．その典型例として上流域の富川に『五百羅漢』（図 18）と呼ばれる姿勢がある．江戸時代(1699 年)8 月 11 日から降り出した雨は豪雨となり，13 日には本明川が決壊し，487 名が亡くなるという大きな被害があった．おまけに翌年は日照り続きの干ばつで作物が取れない事態にもなった．相次ぐ災害に心を痛めた領主の諫早茂晴が天災を鎮めるため，本明川の源である富川にこもって龍神をまつり厄払いと 487 名の冥福を祈り，富川渓谷のあらゆる岩に羅漢像を刻んだ．発見されているだけでその数羅漢像が 500 体，如来像が 3 体ある．実際に見学したが，どうやって彫刻したんだろうと思うような難所にも美しい曲線で像が刻んである．

現在本明川の本川には本明川ダムの建設が検討されている（図 19）．パンフレットによると，完成すれば長崎県最大の貯水量のあるダムになるが，それでも 860 万m^3と 1000 万m^3に満たない．いかに洪水調整，水資源確保が難しい流域か分かる．

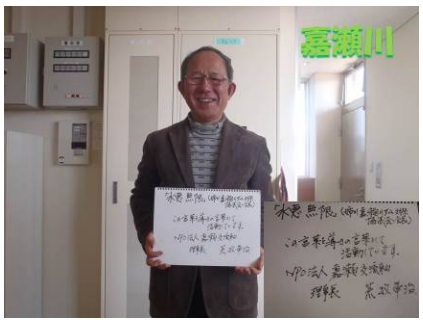
図 17　本明川の陸閘

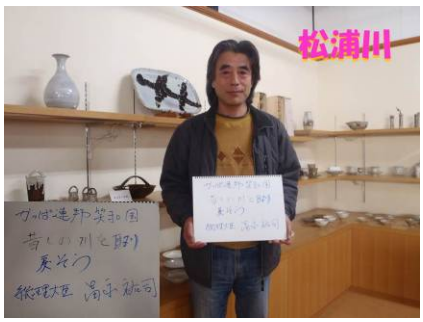
図 18　富川渓谷の五百羅漢像

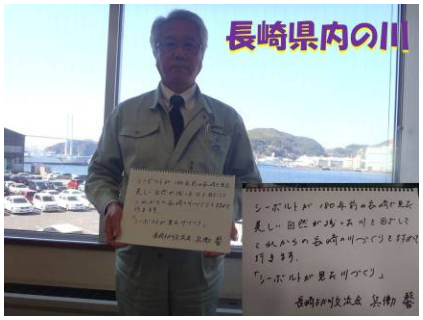
図 19　本明川ダム予定地（検討中）

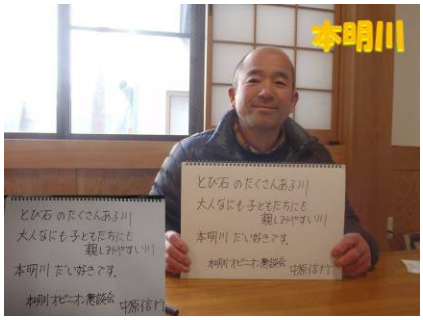
８．旅のおわりに

本明川を見学した後は諫早出張所に向かい，出張所長に長崎県内の市民活動の実態に関してお話しを聞きして今回の調査は終了．出張所で一通りお話しを聞き終えた頃，数人の事務所の方が会議を終えて出て来られた．「あれ，君，遠賀川の坂本君じゃないね？当時高校生だったのに，大人になったねえ！」「あれ，君，佐賀のオープンカレッジであった坂本君じゃないか.」と当時お会いしていた方々にも再会．覚えていて下さって大変うれしかった．たまたま事務所長にもお会いでき，今回の旅の目的をご報告して，無事に旅を終えた．今回も多くの方にお世話になりました．









- 滞在日数:3日間
- ダムカード獲得枚数:2枚
- 訪ねた学習館等:2施設
- 訪ねた河川事務所:2機関
- 訪ねた1級水系:4水系
- 訪ねた2級水系:4水系
- 名刺交換した人数:25名
- 旅をサポートして下さった現地の方:6名
- 出会った行政の人:20名(推定)
- 旅で出会った人:50名以上

【筆者について】

坂本 貴啓（さかもと たかあき）

1987 年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代には YNHC（青少年博物学会）、大学時代では JOC（Joint of College）を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。

筑波大学大学院 生命環境科学研究科 環境科学専攻 博士前期課程在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『河川市民団体における活動量の定量的分析』と題し、河川市民団体の活動がどの程度河川環境改善の潜在力を持っているかについて研究中。最近のお気に入りは河原で春を見つけること.

水辺からのメッセージ No.46

国土文化研究所　特任研究員　岡村幸二（JRRN 会員）

もうすぐ春の気配：
白梅の咲く特別名勝・六義園を訪れる人たちにも暖かい陽ざしが

撮影：2010 年 2 月（東京都・文京区六義園）

◆藤代峠から春が見える

1702 年、五代将軍綱吉の時代に川越藩主・柳沢吉保により築園されたもので、池をめぐる園路を歩きながら景色を楽しめる“回遊式築山泉水”の庭園です。園内に花木はそう多くありませんが、2 月半ばには、気品のある白梅が鑑賞できます。

◆江戸の大名庭園が昭和の特別名勝に

明治時代には岩崎彌太郎の別邸となり、その後明治 13 年には東京市に寄付されて、昭和 28 年には国の特別名勝に指定された文化財となりました。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ（2013 年 2 月末までの提供分）

【JRRN 会員からの提供情報】

『動植物実態調査中間報告会 –なごやの生きものの今をさぐる-』（3/10 開催）

JRRN 個人会員である愛魚家・宇地原様より御提供頂いたイベント情報です。

○日時：2013 年 3 月 10 日(日)
○会場：名城大学天白キャンパス
○主催　：なごや生物多様性センター
◆詳細は以下参照
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/881.html

【JRRN 会員からの提供情報】

「河川文化を語る会」

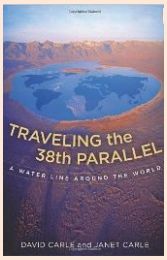
JRRN 団体会員である公益社団法人日本河川協会から河川文化を語る会のご案内です。

【第 177 回】
◆テーマ：「日本の防災の課題と展望―東日本大震災と近年豪雨災害の教訓に学ぶ―」
◆講師：関克己 氏（京都大学経営管理大学院 客員教授、NPO 法人 CeMI 環境・防災研究所 首席研究員）
◆日時：2013 年 3 月 25 日（月）　18:00～20:00
◆場所：厚生会館（全国土木建築健保）（東京都千代田区）
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/871.html

【第 178 回】
◆テーマ：「東日本大震災の教訓―防災への備えと復興への提案―」
◆講師：村井俊治 氏（東京大学名誉教授／社団法人日本測量協会 会長）
◆日時：2013 年 4 月 22 日（月）　18:00～20:00
◆場所：厚生会館（全国土木建築健保）（東京都千代田区）
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/878.html

【海外からの提供情報】

書籍「北緯 38 度線旅行記–世界の水問題境界線」ご案内



アメリカのカリフォルニア大学出版より出された英語書籍「Traveling the 38th Parallel: A Water Line Around the World（北緯 38 度線旅行記 – 世界の水問題境界線）」のご案内を著者より頂きました。
◆詳細は以下参照
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/884.html

【海外からの提供情報】

「第 16 回国際河川シンポジウム（2013 年 9 月）発表者募集」案内

IRF（国際河川財団）より、本年 9 月にオーストラリア・ブリスベンで開催される第 16 回国際河川シンポジウム（16th International Riversymposium）の口頭発表論文募集のご案内を頂きました。本年は、「水・エネルギー・食料と河川の関わり（RIVERS: LINKING WATER – ENERGY – FOOD）」を主テーマに、「河川システム」「河川とエネルギー」「都市と河川」「河川の健全性」「地球規模で見た河川」等のサブテーマで、口頭発表やポスター発表者を募集しています。
◆詳細は以下参照
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/1030.html

【海外からの提供情報】

「ヨーロッパ河川再生会議 2013（2013 年 9 月）参加受付開始」ご紹介

ECRR（ヨーロッパ河川再生センター）より、本年 9 月にオーストリアの首都・ウィーンで開催される「ヨーロッパ河川再生会議 2013」の参加受付登録開始のご案内を頂きました。

会議でのテーマ、先行予約割引案内、また本年より始まる欧州国際河川賞の案内などが紹介されています。
◆詳細は以下参照
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/991.html

【海外からの提供情報】

「RRC（英国河川再生センター）の最新会報（Bulletin）」ご紹介

RRC（英国河川再生センター）の最新会報（2013 年 2 月号）を RRC 事務局より送付頂きました。

本号では、本年 4 月に開催されます「第 14 回 RRC 年次講演会」案内などが紹介されています。

◆詳細は以下参照
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/892.html

会議・イベント案内（2013 年 3 月以降）

（JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント）

現在企画中

（河川・流域再生に関する主なイベント）

■平成 24 年度　東京都舟運フォーラム
○日時：2013 年 3 月 6 日（水）　14:00～17:00
○主催：東京都産業労働局
○場所：複合商業施設「MIRROR（ミラー）」5 階
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1631.html

■第３回　内湾の機能回復シンポジウム
○日時：2013 年 3 月 7 日（木）　13:00～17:30
○主催：漁業用水問題研究会
○場所：GE カレッジホール
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1633.html

■動植物実態調査中間報告会 –なごやの生きものの今をさぐる-（詳細は前頁参照）
○日時：2013 年 3 月 10 日（日）14：00～16：00
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1618.html

■気候変動に適応する治水方策に関するワークショップ
○日時：2013 年 3 月 12 日（火）　13:30-17:30
○主催：国土交通省国土技術政策総合研究所
○場所：TKP 東京八重洲カンファレンスセンター
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1608.html

■「水の知」（サントリー）総括寄付講座最終シンポジウム　「水の知」
○日時：2013 年 3 月 14 日（木）14：00～17：45
○主催：東京大学総括プロジェクト機構「水の知」（サントリー）総括寄付講座
○場所：東京大学本郷キャンパス医学部教育研究棟
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1627.html

■シンポジウム「川の地域連携と人づくり」
○日時：2013 年 3 月 16 日（土）13:00～15:30
○主催 :NPO 法人　川・まち・人プロデューサーズ　他
○場所：早稲田リサーチパークコミュニケーション C
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1638.html

■第 17 回荒川流域再生シンポジウム
○日時：2013 年 3 月 17 日（日）　9:30～16:00
○主催：NPO 法人荒川流域ネットワーク
○場所：日高市生涯学習センター
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1629.html

■第 177 回 河川文化を語る会『日本の防災の課題と展望―東日本大震災と近年豪雨災害の教訓に学ぶ―』（詳細は前頁参照）
○日時：2013 年 3 月 25 日（月）　18:00～20:00
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1606.html

■第 178 回 河川文化を語る会『東日本大震災の教訓 -防災への備えと復興への提案-』（詳細は前頁参照）
○日時：2013 年 4 月 22 日（月）　18:00～20:00
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1620.html

■2013 年度河川技術に関するシンポジウム
○日時：2013 年 6 月 6 日（木）～7 日（金）
○主催：土木学会水工学委員会河川部会
○場所：東京大学農学部 弥生講堂
http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1602.html

書籍等の紹介

■ PRAGMO 日本語版 河川及び氾濫原再生の順応的管理に向けたモニタリングの手引き（2012.11 発刊）

・発行：ARRN, JRRN
・監修：白川直樹　筑波大学システム情報系　准教授
・翻訳：JRRN 会員ボランティア（10 名）
・編集：筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミ等

※本冊子の入手方法

本手引きをご希望の方は、JRRN 事務局までご連絡ください。JRRN 会員限定サービスとさせて頂き、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録（無料）後にお申込下さい。

info@a-rr.net　/ 電話：03-6228-3862

■ アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2（2012.2 発刊）

・発行：ARRN, JRRN
・監修：ARRN 技術委員会
・編集：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

※本冊子の入手方法

左記の PRAGMO 日本語版と同様の方法でお申し込み下さい。

info@a-rr.net　/ 電話：03-6228-3862

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。

市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

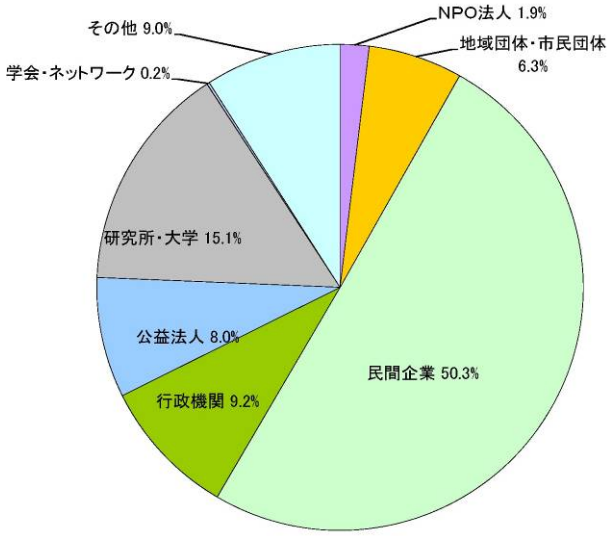
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

(1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
(2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
(3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
(4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
(5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧下さい。

http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html



2013 年 2 月 28 日時点の個人会員構成
（個人会員数：597 名、団体会員数：50 団体）

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員（一般）
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール（週1回）の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter（毎月）及び年次報告書（年1回）等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュール（ARRN Newsletter等）の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照： http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html

【発行・問合せ先】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)　事務局
公益財団法人リバーフロント研究所　内
〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号　新川中央ビル 7 階
Tel:03-6228-3862　Fax:03-3523-0640　E-mail: info@a-rr.net　URL: http://www.a-rr.net/jp/

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

公益財団法人 リバーフロント研究所　　CTI 建設技術研究所 国土文化研究所